

[広報資料詳細版](#)

RS モデルのなかのグランツーリスモ： 新型 Audi RS 5 Coupé

Audi RS 5 Coupé は、力強いパワーとバランスのとれた運動性能を、日常ユースにおける高い実用性と融合したスポーツクーペです。新開発された 2.9 TFSI ツインターボエンジンは、331kW (450hp) 最高出力と 600Nm の最大トルクを発揮します。全モデルに標準装備される quattro ドライブシステムを介してパワーを 4 輪に振り分けることで、最高レベルのトラクション、ハンドリング、走行安定性を実現しています。さらに、革新的なインフォテインメントシステムや、相互に連携して作動する数多くのドライバーアシスタンスシステムを装備しています。

エクステリアデザイン

新型 Audi RS 5 Coupé は、グランツーリスモとしてのスポーティなキャラクターを明確に打ち出しています。このクルマの担当デザイナーは、かつてのレーシングカー、Audi 90 quattro IMSA GTO からインスピレーションを得ました。フロント、サイド、リヤのいずれの部分にも、RS モデルならではのデザインが採用されています。第二世代の Audi RS 5 Coupé の全長は 4,723mm で、先代モデルと比較すると、74mm 長くなっています。全高は 1,360mm で、6mm 低くなっています。1,861mm の全幅は、先代モデルとほぼ同一です。

Audi A5 Coupé と比較すると、ハニカム構造を採用したシングルフレームグリルがより幅広くフラットに見えます。ここには、quattro の文字と RS 5 のエンブレムが設置されており、その下には、ボディと対照色のブレードが、左右のエアインレットを連結する形で設置されています。ハニカム構造はこのエアインレットにも採用されており、フロントビューをよりダイナミックに見せる効果を生んでいます。

ヘッドライトは、標準仕様でも LED テクノロジーを用いており、オプションのマトリクス LED ヘッドライトを選択すると、ベゼル部分のカラーがより暗いものとなります。Audi RS 5 Coupé ではさらに、追加のラテラルエアインレットを設置して、車体の幅広さと精悍な印象を強調しています。



大胆なエアインレットと対照色でペイントされたブレードを備えた RS バンパーにより、新型 Audi RS 5 Coupé のフロントは、よりスポーティで精悍な印象を与えます。

幅の広いシングルフレームグリルは、ブラック仕上げのハニカムグリルをアルミ調のフレームで縁取ったデザインになっており、quattro の文字が力強いアクセントになっています。

サイドシルエットでは、シャープなショルダーラインが特徴的なウェイブを形成し、エレガントでエモーショナルな雰囲気を醸し出しています。ショルダーラインには 3 次元的な造形が採用され、光と陰の見事なインタープレイが演出されています。ボディサイドでは、いわゆる“quattro プリスター”により、ホイールアーチの上の膨らみを強調。実際、その部分はボディ幅が 15mm 拡大されています。幅広くなったドアシル部分は、ボディ同色でペイントされ、ブラックもしくは、オプションでカーボンのインサートが装着されます。マットアルミ調のサイドミラーハウジングは、オプションでカーボン、ボディ同色、もしくはブラックの仕様をオーダーすることができます。

リアエンドでは、RS 専用のディフューザーインサート、RS エグゾーストシステムの楕円形テールパイプ、LED テールライトの外側に設置された縦長のエアインレットなどが、スポーティなアクセントとなっています。ブラック、もしくはオプションのカーボン仕上げのスポイラーリップが、精悍なイメージをさらに高めています。

さらなるカスタマイゼーション オプションとして、グロスブラック、カーボン、マットアルミ仕上げのパーツから構成されるスタイリングパッケージも用意されています。ボディカラーは 7 色の設定となりますが、Audi Sport から、エクスクルーシブな専用カラーとしてソノマグリーンメタリックが用意されています。さらに、アウディ エクスクルーシブプログラムを利用すると、自由な調合による特別なカラーを選択することができます。

エンジン

新開発された 2.9 TFSI は、初代 Audi RS 4 Avant に搭載されていた 2.7ℓV6 の伝説を現代に受け継ぐエンジンです。1999 年から 2001 年まで生産されたその高性能 V6 エンジンは、280kW (380hp) のパワーを発生していました。2.7ℓ ユニット同様、新しい高性能 V6 もツインターボエンジンとして設計されています。先代 Audi RS 5 に搭載されていた高回転型の自然吸気 V8 ユニットと比較すると、トルクの面でも効率の面でも改善され、新たな次元に到達しています。



2.9 TFSI は、従来型よりも 170Nm 高い 600Nm の最大トルクを、1,900~5,000rpm の幅広い回転域で発生します。331kW（450hp）の最高出力は、リッターあたり 155.5hp に相当します。これにより、新型 Audi RS 5 Coupé は、0-100km/h をわずか 3.9 秒で加速します。先代モデルと比べると、これも 0.6 秒速くなっています。RS ダイナミックパッケージを注文した場合、電子的に 250km/h に制御されている最高速度は、280km/h に高めることができます。

Audi RS 5 Coupé	2.9 TFSI
排気量：cc	2,894
最高出力：kW (hp) / rpm	331 (450) / 5,700~6,700
最大トルク：Nm / rpm	600 / 1,900~5,000
最高速度：km/h	250、280（オプション）
加速：0-100 km/h、秒	3.9
複合モードにおける燃料消費量：ℓ/100 km	8.7
複合モードにおける CO2 排出量：g/km	197
駆動システム	quattro フルタイム 4WD
トランスミッション	8 速ティプトロニック

モジュラーコンセプト：新世代の V6

2.9 TFSI は、Audi S5 に搭載されている 3.0 TFSI から派生したエンジンです。内部にかかるより大きな応力を考慮して、シリンダーのストロークを 3.0 TFSI より 3mm 短くして 86mm にしています。3.0 TFSI と同じ 84mm のボアと組み合わせることにより、2,894mm の総排気量を得ています。クランクケースには、グレー鋳鉄で作られた薄壁のシリンダーライナーを組み込んでいます。クランクシャフトのメインベアリングの径も 3.0 TFSI に対して、2mm 拡大しました。

砂型鋳造を用いたアルミシリコン合金製クランクケースの重量は、わずか 34kg です。いわゆる「ディープスカート」を採用したこのクランクケースは、ウォールを下方に長く伸ばすことにより、さらなる軽量化を図っています。エンジン単体の重量は 182kg で、先代 Audi RS 5 Coupé の自然吸気 V8 と比べると 31kg 軽くなっており、車両の絶対重量とともに、前後アクスルの重量配分を適切化する効果を生んでいます。



Vバンクの内側に排気系を配置したアウディ独自のレイアウト

2つのターボチャージャーが、それぞれ各シリンダーバンクの片側を担当して、最大0.95バールの過給圧を発生させます。アウディの他の最新V6/V8エンジンと同様、ターボチャージャーは、90°Vバンクの内側に設置されており、シリンダーヘッドも、排気系が内側、吸気系が外側という配置になっています。このレイアウトにより、エンジン外寸をコンパクトに収めると同時に、排ガス経路を短縮して、フローロスも最小化。結果として2.9 TFSIは、アクセルペダルの動きに対しきわめて敏感に反応するエンジンに仕上がっています。

燃料消費の削減：新開発の燃焼方式「Bサイクル」

高出力を発揮する2.9ℓ V6の美点は、パフォーマンス面だけではありません。同時に、燃費効率の面でも高い水準をクリアしています。NEDC（新欧州ドライビングサイクル）で、新型Audi RS 5 Coupéは、100km走行あたりわずか8.7ℓしかガソリンを消費しません。これは、CO₂排出量に換算すると197gに相当し、先代モデルと比較すると、燃料消費量は17%も削減されています。これには、Bサイクルと呼ばれるアウディ TFSIの新しい燃焼方式が大きく貢献しています。とりわけ、日常的な走行で圧倒的に使用比率が高い中間負荷の運転状況において、Bサイクルは、素晴らしい効果を発揮します。

吸気工程において、インテークバルブは、ピストンが下死点に達するかなり前に閉じます。そのようにバルブの開閉時間を非常に短くすることで、吸入するエアの量が相対的に少なくなります。ピストンが下死点を過ぎて上昇に転じて、圧縮工程の開始が通常より遅れることとなります。それにより、名目上の圧縮比を（過給エンジンとしては）高い10.0:1に設定することが可能になり、燃焼を相対的に小さな容積のなかで行うことができます。短い圧縮工程に対し、膨張行程は長くなるため、燃焼効率が向上します。

従来型のミラーサイクルの場合、充填効率が下がることでトルクとパワーが低下していました。しかし、アウディのTFSIエンジンは、ターボチャージャーと2ステージのアウディバルブリフトシステム（AVS）を組み合わせることにより、そのようなデメリットを解消しています。2.9 TFSIの4本のカムシャフトは、クランク角にして50°の範囲で調整されます。高負荷、高回転で運転している場合には、AVSにより吸気バルブが閉じるタイミングが遅くなります。バルブの開放時間も、クランク角にして130°から200°まで延長され、同時にバルブリフト量も6.0mmから10.0mmに拡大されます。それによって、シリンダーの充填率が大幅に向上して、2.9 TFSIは力強く吹き上がり、印象的なパワーを発揮するようになります。

Bサイクルの燃焼プロセスで要となるコンポーネントのひとつが、燃焼室の中央に設置されたインジェクターです。これにより、吸気バルブ周りのエリアを、吸気ポートと併せて、燃料の霧化に有利な形状にすることが可能になりました。コモンレールシステムにより、燃料は燃焼室内に250バールの圧力で噴射されます。高い噴射圧により、燃料の霧化が促進され、結果として、燃焼時の均等な火炎伝播が実現しています。



独立した経路：サーマルマネジメント

もうひとつ、2.9 TFSI の高効率を支えている技術要素となっているのが、サーマルマネジメントシステムです。クランクケースとシリンダーヘッドには、それぞれ独立した冷却回路が設置されています。冷間始動後には、切り替え式のウォーターポンプがエンジン内の冷却水の流れをコントロールして、エンジンオイルが可能な限り早く温まるようにしています。エグゾーストマニフォールドはシリンダーヘッドと一体化された設計になっており、その中にも冷却回路を設置して暖気時間を短縮しています。エンジンが温まった後には、排ガス温度の過度な上昇を抑えて、とくにスポーティに走行する際の燃料消費量を、大幅に削減しています。V6 ツインターボエンジンの高効率には、低い内部フリクションも貢献しています。例えば、オイルポンプは無段階可変式で、必要に応じた圧力を発生します。

また、チェーン駆動のシステムにも、駆動力の少ない新しい方式を採用。クランクシャフトは、ギヤを介して balanサーシャフトを駆動する仕組みになっており、balanサーシャフトはVバンクの低い位置に配置されています。この部分から、チェーンが4つのカムシャフトスプロケットに掛けられています。スプロケットは、力のピークを補正するためにトリオーバル（3つの辺を持つ楕円）形状をしており、balanサーシャフトの支えにはローラーベアリングを用いて、フリクションロスを最少化しています。

V6 ツインターボの力強いサウンド

2.9 TFSI エンジンは、始動させた瞬間から独特のサウンドを奏でます。高負荷運転においては、エグゾーストシステムのフラップが開いて、さらに豊かなサウンドを奏でます。このフラップの開閉は、全モデルに標準装備されているダイナミックハンドリングシステムのアウディドライブレレクトを介して、任意にコントロールすることができます。これは、標準装備される RS エグゾーストシステムの場合も、オプションのブラックテールパイプトリムを用いた RS Sport エグゾーストシステムを選択した場合も同様です。インテークシステムも大幅な改良が加えられ、光沢仕上げのステンレス製パイプを用いて、吸入エアがスムーズに流れる設計となっています。

ドライブレイン

新型 Audi RS 5 Coupé は、シフト時間を最適化して素早く、スポーティな変速を実現した8速ティプトロニックを標準装備しています。ギアセットとシフト機構の新しいレイアウトにより、操作抵抗が減り、効率面でも改善されています。ギヤの多段化により、幅広い走行領域において、エンジンを理想的な負荷ポイントで使用することが可能になりました。8段の前進ギヤのうち、低い側には加速重視の短いレシオを採用する一方で、高い側には長めのレシオを与えて、クルージング中のエンジン回転数と燃料消費を抑制しています。

ドライバーは、D と S の自動モードを選択できるほか、ステアリングホイールに設置された RS 専用のシフトパドルを使って、マニュアル操作を行うことができます。トランスミッションへの指令は電気的に行なわれます。発進時には、ダイナミックスターティング機能により、トラクションが最適に制御されます。この機能を使用すると、Audi RS 5 Coupé は、強力な加速力を発揮するようになります。その場合は ESC をスポーツモードにして、ティプロトニックのセレクターレバーを S ポジションにしておく必要があります。

パワーをダイナミックに分配：quattro ドライブシステム

quattro フルタイム 4WD システムは、このセグメントのクルマのなかで、ユニークなセールスポイントのひとつになっています。このシステムは、駆動トルクを前後輪に非対称及びダイナミックに振り分けることにより、新型 Audi RS 5 Coupé のスポーティで安定したハンドリング性能に大きく貢献しています。通常の走行状況では、リヤアクスルに少し多めにパワーが振り分けられます。純粋に機械的に作動するセンターディファレンシャルが、駆動トルクの 60%をリヤアクスルに、40%をフロントアクスルに配分します。もし、どちらかのアクスルでスリップが発生した場合、スリップしていないもう一方の側のアクスルにパワーの大半が配分されます。その場合、フロントに最大 85%、リヤに最大 70%のトルクが伝達されます。この高いロック率によって、駆動トルクの理想的な配分と、コントロールシステムとの精妙な連携が実現しています。

オプションのスポーツディファレンシャルにも、RS モデル専用のチューニングが施されており、コーナリング中もしくは加速時に、よりダイナミックなレスポンスを提供します。これには、リヤ左右間のトルク分配をアクティブに行う機能が備わっています。新型 Audi RS 5 Coupé に採用された最新世代のディファレンシャルは、重量が従来型より約 1kg 軽くなっています。





ホイールセレクトティブトルクコントロールにより、quattro フルタイム 4WD システムの機能が完全なものになりました。これは、高速コーナリング中、コーナー内側の前後ホイールに、精密に計算されたブレーキをかけて介入し、タイヤの空転を事前に防止するシステムです。左右輪の推進力に差が生じることで、クルマはわずかにコーナー内側に姿勢を向けるため、俊敏性、ハンドリングの正確性、安定性がさらに向上します。

3つのモードを備えた RS 専用チューンのスタビライゼーションシステム

新型 Audi RS 5 Coupé には、RS モデル専用のチューンが施されたエレクトリックスタビライゼーションコントロール (ESC) とアンチスリップコントロールシステムが搭載されています。ESC には、通常モードに加えて、システムの介入が遅くなるスポーツモードが設定されています。このモードを選ぶと、低 μ 路でのドリフトコントロールも可能となり、ドライビングプレジャーが高まります。さらに ESC のボタンを 3 秒以上押し続けると、ESC の機能が完全にキャンセルされますが、これはサーキットなどで本格的なスポーツ走行を楽しむ場合を想定したモードです。

シャシー

新型 Audi RS 5 Coupé のサスペンションの開発コンセプトは、縦方向と横方向の力を最適に吸収するというものでした。フロントには、さらに進化した 5 リンク式サスペンションが採用されています。リヤにも、従来のトラペゾイタルリンク式のシステムに代えて、今回から 5 リンク式サスペンションを採用しています。このシステムの利点は、スポーティな走行特性と俊敏なハンドリングが得られることで、同時に快適性も大幅に向上します。標準装備される RS スポーツサスペンションは、ベースモデルよりも地上高が 7mm 低くなっています。さらに、オプションでダイナミックライドコントロール (DRC) を採用した RS スポーツサスペンションプラスを注文することができます。このサスペンションは、スチール製のスプリングと、X 字型のオイルラインで相互に結ばれ、中央に調整バルブが設置された 3 段階調整式可変ダンパーを使用しています。高速でコーナーに進入すると、カーブに対して外側に位置するフロントホイールのダンパー内のバルブが働いて、ダンパーオイルの流れが制御されます。もっとも応力のかかるホイールのダンパー減衰力を高めることで、ピッチングやロールといった動きが抑制されます。これによって、車両の安定性が高まりハンドリングが向上します。コントロールバルブを内蔵した新世代のダンパーが搭載されたことで、アウディドライブセレクトで走行モードを切り替えたときのドライブフィールの違いもより顕著なものになっています。

ドライバーは、アウディドライブセレクトを用いて、ドライビング特性を自分好みに設定することができます。アウディドライブセレクトを介して調整できるのは、エンジン及びステアリング特性です。さらに、auto、comfort、dynamics、individual の 4 つのモードから選択することで、ティプトロニック、エグゾーストフラップに加え、オプションモジュールの各制御プログラムも変更することができます。



標準装備の電動パワーステアリングも、今回改良が施されていますが、さらにオプションで、RS モデル専用のチューニングを施したダイナミックステアリングも選択することができます。スーパーポジションギヤを採用したこのシステムでは、クルマの速度、及びオーディオドライブセレクトで選択された走行モードに応じて、最大 100%の範囲でステアリングのギヤレシオが可変制御されます。限界的なコーナリングに際しては、システムが、瞬時にカウンターステアによる介入を行ない、ハンドリング性能を高めるとともに、安全性を確保します。ただし、オーディオドライブセレクトの dynamic モードを選択した場合には、ダイナミックステアリングのスーパーポジションギヤは固定されて、スポーティなドライビングスタイルがサポートされます。

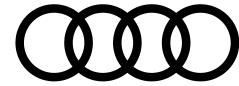
新型 Audi RS 5 Coupé には、19 インチの鍛造軽合金ホイールと 265/35 サイズのタイヤが標準装備されます。さらにオプションで、様々なデザインの 20 インチホイールを注文することが可能で、そのなかには、きわめて軽量に仕上げられた完全削り出し加工のホイールも含まれています。その場合のタイヤサイズは、275/30 となります。それら大径ホイールの背後には、パーフォレーテッド（孔あけ）加工が施された強力な RS スチールブレーキが装着されています。ディスクのサイズは、フロントが 375mm、リヤが 330mm です。RS のロゴが刻まれた 6 ピストンブレーキキャリパーは、通常ブラックでペイントされていますが、オプションでレッドのペイントも選ぶことができます。また、フロントブレーキについては、やはりオプションで、高性能なセラミックブレーキも設定されており、その場合、400mm 径のパーフォレーテッドディスクと 6 ピストンキャリパーの組み合わせとなります。

ボディ

A5 シリーズの他の全モデル同様、新型 Audi RS 5 Coupé も、大幅な軽量化の恩恵を受けています。空車重量は 1,655kg で、旧型より 60kg 軽くなっています。とくにボディは、このセグメントのクルマのなかでもっとも軽量に仕上がっており、体系的な軽量構造とインテリジェントな素材の組み合わせにより、先代モデルと比べて単体で 15kg 軽くなりました。例えば、インストルメントパネル下のモジュールクロスメンバーは、アルミの押し出し材及び薄板で構成されており、フロントクロスメンバーには、アルミ押し出し材が採用されています。

また、フロントストラットドームは、鋳造アルミパーツを複雑に組み合わせた設計になっており、多数のスチールパーツを溶接して作った一般的なストラットドームと比べて、この部分だけで重量が 8kg 軽くなっています。この設計により、サスペンションのアップリンクとボディ接続部分の剛性が高まり、きわめて正確なステアリングレスポンスが実現しています。これは、ダイナミックなハンドリング性能を得る上での、最適な前提条件となっています。

乗員セルの部分では、熱間成形スチールパーツにより、衝突安全性に優れた強固な骨組みが構成されています。熱間成形スチールパーツが使われているのは、フロントボディとインテリアの接続部、ルーフレームの前方部分、B ピラー、サイドシル、フロアの一部な



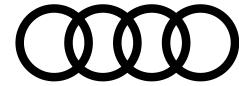
どです。これらのパーツは、ボディ全体の 17%を占めています。オプションで、素地を露出させたカーボンルーフも設定されており、このルーフを選択すると、さらに重量が 3kg 軽くなります。

卓越した振じり剛性を実現したボディは、精密なドライビングレスポンスと静かで快適な乗り味の基盤となっています。新型 Audi RS 5 Coupé は、この面でもライバルをリードしています。特性を切り替えられるエンジンマウントにより、アイドリング時の振動も最小に抑えられています。新型 Audi RS 5 Coupé はまた、パッシブセーフティの面でも、最高の水準を満たしています。室内では、万一の場合、フロントシートに装着されたアダプティブパッセンジャーレストレイントシステムが、優れた保護機能を発揮します。このシステムは、ドライバーと助手席乗員の着座位置、及び衝突の状況に合わせてフロントエアバッグとシートベルトフォースリミッターの働きを調整し、その効果を最適化します。

インテリア

ホイールベースが 15mm 延長され、ボディ外寸が拡大されたことに加え、シートの設計が少しコンパクトになったことで、ドライバーと乗員のためのスペースが拡大されています。先代モデルと比較すると、前席のショルダー룸は 26mm 拡大されており、後席のニールームも 23mm 広がっています。さらに、収納ボックスが付いたフロントセンターアームレスト、大型のドアポケット、2 つのカップホルダー、ロータリーライトスイッチの下に新設されたフタ付きの小物入れなど、収納スペースも充実して、日常的な使い勝手を高めています。ドライバーと助手席乗員の利便性を高めるもうひとつのアイテムが、シートベルトの高さ調整機能で、これにはベルトの引き出し/収納を容易にするパワーベルトフィード機構が組み合わされています。リヤシートは 2 人掛けで、中央に折り畳み式のアームレストと収納トレーが設置されています。リヤシートのバックレストは、トランクのリモートロック解除機構を使って、40 : 20 : 40 の 3 分割で倒すことが可能です。

ラゲッジコンパートメントの容量も、先代モデルから 10ℓ 拡大され、このセグメントでは最大級の 465ℓ が確保されています。テールゲートにはパワー開閉機構が標準で備わっており、さらにオプションで、センサーコントロール機能を追加することもできます。センサーコントロールを装着すると、リヤバンパーに内蔵された近接センサーが、ユーザーの蹴る動作を感知して、テールゲートが開くようになります。ユーザーがオプションのアドバンストキーを携帯していた場合には、近づいただけでテールゲートが自動的に開錠され、開くようになります。

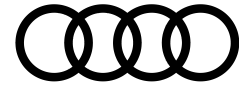


黒と赤でまとめられたスポーティなインテリア。ボトム部分がフラットになった RS スポーツレザーステアリングホイール、ステンレススチール仕上げのペダル類、RS スポーツシートなどが全モデルに標準装着されます。オプションで、ハニカムパターンの飾りステッチを用いた上質なナッパレザーのシートカバーも注文することができます。赤い飾りステッチは、ステアリングホイール、センターコンソール、アームレスト、シート、フロアマットなどに採用されており、視覚的アクセントになっています。カーボン仕上げの装飾トリムにより、ダイナミックな印象がさらに強調されています。

新型 Audi RS 5 Coupé のインテリアは、上質かつスポーティなスタイルでまとめられており、水平基調のインストルメントパネルにより、広々とした雰囲気が演出されています。ドアを開けると、RS 5 のロゴが備わった照明付きのドアシル（全モデルに標準）が、ドライバーと乗員を歓迎します。ドアトリムとセンターコンソールの曲線に沿って、LED のライトガードが埋め込まれており、オプションのアンビエントライティングを装着すると、そこから 30 種類もの色の光が発せられるようになります。

インテリアはブラックが基調になっています。菱形パターンとエンボス加工による RS のエンブレムを採用した RS スポーツシートにより、高性能クーペとしてのキャラクターが明快なものになっています。シートはレザーとアルカンターラの組み合わせとなり、シートヒーターとランバーサポートも標準で備わっています。他にオプションで、上質なナッパレザーにハニカムパターンのステッチを施した RS スポーツシートも注文することができます。RS スポーツシートは、パーフォレーテッド ミラノレザー仕様も用意されています。

フラットボトムの 3 スpoke RS マルチファンクション スポーツレザーステアリングホイールには、便利なマルチファンクションボタンが備わっており、そこからインフォテイメントシステムなどを操作することができます。このステアリングホイールには、アルミのアクセントが付いたハイグロスブラック仕上げのシフトパドルも装着されており、RS のバッジが、ステアリングホイールのリムのほか、RS 専用のシフトゲートにも取り付けられています。Audi RS 5 Coupé のインテリアでもうひとつのハイライトが、オプションの RS デザインパッケージです。このパッケージを注文すると、センターコンソールのほか、アームレスト、シートベルト、RS ロゴ付きのフロアマットに鮮烈なレッドのカラーが採用されます。また、ステアリングホイール、セレクトレバー、ニーパッドが、アルカン



ターラで覆われるようになります。また、アウディ エクスクルーシブが提供するソノマグリーン デザインパッケージを選択すると、エクステリアのエクスクルーシブな新色にマッチした対照色の飾りステッチで、インテリアの各部が装飾されます。

ディスプレイと操作系

新型 Audi RS 5 Coupé に標準設定されるアナログメーターパネルは、いずれも大径丸形の RS モデル専用スピードメーター（スケールは 320km/h まで）とタコメーターを採用しています。それら 2 つのメーターのあいだには、ドライバーインフォメーションシステムの 7 インチカラーディスプレイが設置されています。ベーシックな仕様では、センターコンソールのアウディ MMI ディスプレイも 7 インチですが、オプションの MMI ナビゲーションプラスを装備すると、このモニターが 8.3 インチに拡大されます。

このインストルメントに関しては、他にオプションでフルデジタルのアウディバーチャルコックピットを注文することができます。その場合、解像度 1,440×540 ピクセルの 12.3 インチ TFT ディスプレイに、詳細かつドライバーが選択した情報が映し出されます。他のすべての RS モデルと同様、ディスプレイの画面は、インフォテイメントビュー、クラシックビューのほか、RS 専用モードが設定されています。このモードを選ぶと、丸形のタコメーターが大きく映し出されて、その内側に速度がデジタル表示されるようになります。ドライバーは任意に、丸形メーターの周囲に必要な情報を表示することができます。それらは、例えばトルク (Nm)、パワー (%)、タイヤ空気圧と温度 (バール/°C)、G フォースといった値です。このタコメーターはまた、シフトインジケータとしても機能して、8 速ティプトロニックをマニュアルモードにして運転したとき、エンジン回転数が上がるにつれ、グリーンからオレンジ、レッドへと色が変化します。エンジンがレブリミットに達しそうになると、メータースクリーン全体が赤になって点滅を始めます。RS モードのもうひとつの機能であるラップタイマーは、99 ラップまでタイムを記憶し、各ラップを比較することもできます。その他、タイヤ、エンジンオイル、トランスミッションオイルの温度や、タイヤ空気圧といった重要な車両情報を選択して表示することもできます。

もうひとつ、新型 Audi RS 5 Coupé にオプション設定される先進機構が、ヘッドアップディスプレイです。このシステムは、運転に必要なすべての情報を、ドライバーの視界内にあるフロントウィンドウ上に、数字もしくは分かりやすいアイコンで映し出します。それによって、ドライバーは前方の状況に集中することができます。ここでもまた、RS モデル専用のコンテンツとして、シフト指示のライトやラップタイマーのディスプレイ、オイル温度といった情報を表示させることができるようになっています。

インフォテイメントシステムの操作は、主として、左右非対称デザインのセンターコンソールに設置されたロータリープッシュボタンを使って行います。これにはオプションで、指を使っての文字入力や、画面のズーム/スクロールなどが行える大型のタッチパッドを追加することができます。さらに、新型 Audi RS 5 Coupé のドライバーは、数多くの日常会話のフレーズも理解する自然言語によるボイスコントロールを介して、様々な機能を操



作できます。インテリジェントなフリーテキストサーチ機能により、わずか数文字入力ただけで検索結果を得ることができます。また、マルチファンクションステアリングホイールから、様々な機能を操作することが可能です。

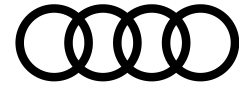
アウディでは新型 Audi RS 5 Coupé に、デラックス オートマチック空調コントロールシステムもオプション設定しています。これは、温度と送風モードを、ドライバー、助手席、後席で、それぞれ独立してコントロールすることを可能にした空調システムです。このシステムでは、デジタルの温度表示が、操作ダイヤルの上に表示されます。この設計により、すべての操作を、ごく少ないボタンとダイヤルだけで行えるようになっています。センサーを備えたスイッチに指を近づけると、それまで暗かった LCD に表示が現れて、そこでボタンを押すことで機能を選ぶことができます。後席の乗員は、リヤセンターコンソールに設置された専用のコントロールユニットを使って、温度の設定などを行うことができます。

インフォテインメントと Audi connect

充実したインフォテインメントシステムのラインナップにより、新型 Audi RS 5 Coupé の乗員は、車内に居ながら、最高水準のエンターテインメントを楽しむことができます。なかでも、オプションで提供される MMI タッチ付きの MMI ナビゲーションプラスは、解像度 1,024×480 ピクセルの 8.3 インチモニターを採用した最上級のインフォテインメントシステムです。これには、DVD ドライブ、10GB のフラッシュメモリーのほか、2 つのカードリーダー、AUX-IN (外部入力) 端子、充電機能を備えた USB 端子が含まれます。さらに、Audi connect のハードウェアモジュールも組み込まれています。それにより、LTE テクノロジーを使ったインターネットとの常時接続が可能になっています。クルマに常時インストールされている Audi connect SIM により、ヨーロッパ全域をカバーするローミングサービスを含めた固定料金の接続サービスパッケージを 3 年間無料で利用することができます。さらに、オプションの Wi-Fi ホットスポットを注文すると、手持ちのモバイルデバイスから、インターネットに接続できるようになります。

新型 Audi RS 5 Coupé では、交通標識情報やハザード情報の提供など、革新的な Car-to-X テクノロジーを用いたサービスの幾つかが、すでに利用可能となっています。いずれも、Audi RS 5 Coupé を他のアウディモデルと接続して、Audi connect SIM を介し、リアルタイムで情報の交換を行います。

交通標識情報サービスの場合、オンボードカメラの画像から制限速度を読み取り、そのデータを携帯電話ネットワークを介してクラウドサーバーに送ります。サーバーでは、収集したデータを処理して、他のアウディドライバーにも利用できるようにします。車載のドライバーアシスタンスシステムがこの情報をもとに、状況を予測して効率的なクルーズコントロールの制御を行ないます。ナビゲーションのマップも、この情報に基づいてアップデートされていきます。



ハザード情報サービスの場合は、事故の発生や故障車両、滑りやすい路面、視界不良といった状況について、クルマどうしで警告し合います。システムは、それを実行するために、車載の電子装置や、雨滴/光センサーからのデータ、ヘッドライト、フロントワイパーの操作モードなど、様々なパラメーターを分析しています。事故や故障が発生すると、即座に eCall システムによりエマージェンシーコールが作動し、エアバッグが展開した場合にも報告が行われます。システムは、保存した情報をクラウドに送信します。メーターパネルには警告表示が現れ、同時にボイスメッセージで、そのことがドライバーに伝えられます。

また、無料の Audi MMI コネクトアプリを使うと、手持ちのスマートフォンの予定表を MMI に転送するなど、様々な機能が利用できるようになります。Napster を介して、数多くの音楽/オーディオのブックタイトル、4,000 を超えるインターネット ラジオ局にアクセスすることもできます。このアプリを使用すれば、Google Maps、POI（施設/観光情報）、あるいは Travel サービスの情報などを、スマートフォンからクルマのナビゲーションシステムに転送することもできます。

標準装備される Audi connect セーフティ&サービスパッケージにも、同様に便利で役立つ機能が数多く含まれています。そのひとつであるリモート機能は、Audi MMI コネクトアプリを使って、離れた場所から、クルマの状況を確認したり、駐車している場所を探したり、ドアのロックやロック解除を行ったりすることができます。このパッケージにはまた、新しい機能として、エマージェンシーコール、オンラインロードサイドアシスタンス、オーディオサービスリクエストなども含まれています

オーディオスマートフォンインターフェイスは、Apple CarPlay と Android Auto を介して、iOS と Android のスマートフォンを、車載のインフォテイメントシステムの環境と融合します。オーディオフォンボックスを利用すれば、スマートフォンを車載のアンテナにつないで受信クオリティを向上させると同時に、Qi 基準に準拠した非接触充電により、スマートフォンの充電を行うことができます。

音響の面でも、Audi RS 5 Coupé は新しい境地を切り開きました。オプションで提供される 3D サウンド付きバング&オルフセン サウンドシステムは、立体的な音響を再現することが可能です。このシステムは、4 つの追加スピーカーを採用し、そのうち 2 つずつを、インストゥルメントパネルと A ピラーに装着しています。それにより、まるでコンサートホールにいるような、臨場感のある音響体験を得ることができます。システムの心臓となるのは 755W×16 チャンネルのアンプで、それにより合計 20 のスピーカーを鳴らします。後席のサイドパネルトリムの裏に設置された 2 つのサブウーファーにより、豊かな低音を奏でます。



ドライバーアシスタンスシステム

最大 30 種類ものドライバーアシスタンスシステムが用意された新型 Audi RS 5 Coupé は、この分野でもライバルをリードしています。幾つかのアシスタンス機能は全モデルに標準となっており、さらに個々のシステムを単独もしくは「Parking」、「City」、「Tour」といったパッケージにまとめて搭載することができます。様々なテクノロジーをインテリジェントに組み合わせることで、クルマの安全性、快適性、効率が高まっています。その一方で、自動運転のテクノロジーも、さらなる発展を遂げました。

ここで中心的な役割を果たしているのが、トラフィックジャムアシスト及びストップ&ゴー機能を備えたアダプティブクルーズコントロール (ACC) です。ACC は、自動的に加減速を行って、前を走るクルマとの距離を安全に保ちます。車間距離は 5 つのレベルから選択することが可能で、加速の度合いも、アウディドライブセレクトのモード選択を介して調整することができます。この機能は、ティプトロニックとの組み合わせで、0~250km/h のあいだであれば有効となります。ストップ&ゴー機能により、必要に応じてクルマを静止状態まで自動的に減速し、ドライバーが望めば、再スタートも自動で行ってくれます。また、65km/h 以下の速度で比較的混雑した道を走っているときには、トラフィックジャムアシストの機能が働いて、交通の流れに乗るよう、アクセルとブレーキの操作を自動的に行います。ハイウェイなどの車線が整った道路であれば、システムが一時的に、ステアリング操作も代行することができます。この場合、システムの能力の範囲内で、自動的に前を走るクルマを追従して、ドライバーの負担を軽減します。

予測効率アシスタントは、クルマの周囲の GPS 情報を分析して、燃料消費の削減に結び付く運転上のアドバイスを行うシステムで、このセグメントではユニークな機能のひとつです。衝突回避アシストは、障害物を避ける運転操作をサポートし、事故の発生を回避するシステムです。このシステムは、フロントカメラ、ACC 及びレーダーセンサーからの情報をもとに、一瞬の判断で推奨される回避経路を計算します。その他、新型 Audi RS 5 Coupé には、ターンアシスト、パークアシスト、クロストラフィックアシストリヤ、エグジットウォーニング、カメラベースの交通標識認識システム、アウディアクティブレーンアシストといったシステムも用意されています。

新型 Audi RS 5 Coupé に標準で備わっているアシスタンスシステムのひとつが、アウディプレセンスシティです。このシステムは、85km/h 以下の速度で走行中、前方の交通状況をカメラなどを使って監視して、他の車両や歩行者を検知し、緊急時にはフルブレーキをかけます。同じく標準装備されるアウディサイドアシストは、ドライバーの車線変更操作を助けるシステムで、15km/h 以上の速度で走行中、他の車両がブラインドスポットにあるか、もしくは後方から急速に近づいてきた場合、ドライバーに警告を発します。この場合、サイドミラーに設置された LED ライトが点灯します。

もうひとつ標準装備された機能であるスピードリミッターは、30~250km/h のあいだの任意の速度に設定することができ、速度規制の厳しい市街地や、工事で規制が敷かれている場所を走るときなど、非常に便利です。ドライバーの集中力が衰えている兆しがあれば、システムが警告を発して、休憩をとるように促します。



装備

新型 Audi RS 5 Coupé は、標準仕様でも、非常に充実した装備を誇ります。LED ヘッドライト、LED テールライト、RS スポーツサスペンション、19 インチ鍛造アルミホイール、RS エグゾーストシステム、アウディドライブセレクトといった機能/装備が、すべてのモデルに標準装着されます。黒を基調にしたインテリアは、レザーとアルカンターラの組み合わせとなり、ダイヤモンドパターンのステッチ及びランバーサポートを備えた RS スポーツシートや、RS 専用のマルチファンクション スポーツレザーステアリングホイール、ステンレススチール仕上げのペダルなどにより、スポーティなイメージが強調されています。同時に、エアコンディショナーや、7 インチのカラーディスプレイを採用した MMI ラジオプラス、Bluetooth、シートベルト高さ調整と連携したベルトフィード機構、アジャスタブルスピードリミッターといったシステム&アイテムにより、快適なドライブをサポートされています。さらに、アウディプレセンスシティ、アウディサイドアシスト、パーキングシステムプラス、マルチコリジョンブレーキアシストといったアシスタンスシステムや、ピークルコントロールを含めた Audi connect セーフティ&サービスパッケージも、全モデルに標準で提供されます。

新型 Audi RS 5 Coupé は、2017 年 6 月から、ドイツ及び他のヨーロッパ各国で販売開始されます。ベース価格は 80,900 ユーロです。第 2 世代の Audi RS 5 Coupé は、初代の輝かしい成功を引き継ぐことになるでしょう。2010 年の発売以来、アウディはこれまでに 13,000 台以上の Audi RS 5 Coupé をお客様に納車しています。